

「新防災教育副読本を活用した指導事例」

学校名 [作並小学校] 指導者 [庄司 祐太]
 [小] 学校 [4・5・6] 年版 単元名「災害時の情報手段」 P 26～27
 教科・領域名 [社会] [時間 45分]

主な学習活動

1 災害時の情報手段について，東日本大震災の状況をふり返る。

① 新防災副読本「災害時の情報手段」の前文と①「東日本大震災の発生直後に人々が求めた情報」を音読する。

- ・ 停電になる。
- ・ 携帯電話が使えない。
- ・ メールもできない。

② 情報ネットワークシステムの限界を理解する。

発問 1

家族がいない時，自分が避難場所に無事避難していることをどうやって伝えれば良いでしょう。

- メモをおく。
- 周りの人に伝えてもらう。
- 避難場所に張り紙を貼る。

発問 2

気付かれなかったらどうしますか。

- そのまま待っている。
- 知っている人に聞く。
- 家に行ってみる。

2 震災時の必要な情報の入手方法について知る。

① 新防災副読本「避難生活と情報の入手」と「災害用伝言ダイヤル（171）」を音読する。

- ・ ラジオの重要性
- ・ 災害用伝言ダイヤルを使うこと。

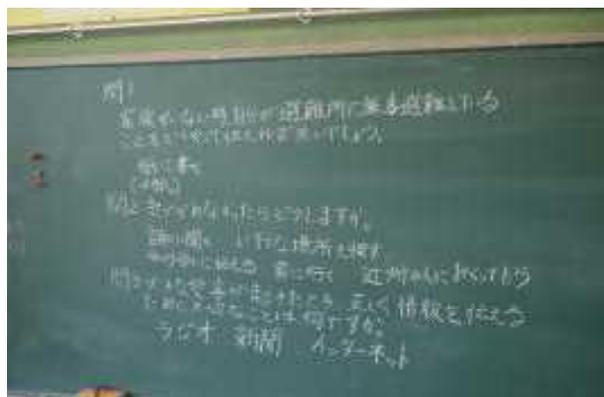
指導の実際



- ・ 防災副読本の「東日本大震災の発生直後に人々が求めた情報」の理解とともに，課題を捉えやすくするために，情報が全て途絶えた状況についての事例を知らせたことから，大災害の時は，あらゆる情報が使えなくなったことを理解させることができた。

[児童の反応]

- 家に手紙を残す。
- 居場所を紙に書いておく。
- 知り合いの人に伝えてもらう。
- 家族がいそうな場所を探す。
- 大人の人に家族を見ていないか聞く。
- 近所の人に家に送ってもらう。
- 他の家の家族に伝言を伝えてもらう。



[板書の様子]

3 震災時の情報伝達方法について考え、話し合う。

発問 3

大きな災害が起きたとき、正しく情報を伝えるために大切なことは何ですか。

- ① 自分の考えを学習シートに書く。
- ② ペアで話し合う。
- ③ 全員で意見を出し、話し合う。
 - ラジオを身近なところに置く。
 - 災害時伝言ダイヤルの使い方を確かめておく。
 - 避難する場所や連絡の仕方についての家族と話し合っておく。
 - 近所や地域の人と連絡方法について話し合っておく。

4 本時の感想を書く。

3年 防災の授業学習シート

災害時の情報手段について考えよう

名前 _____

問1 家族がいない時、自分が避難場所に無事避難していることをどうやって伝えれば良いでしょうか。

問2 気付かれなかったらどうしますか。

問3 大きな災害が起きたとき、正しく情報を伝えるために大切なことは何ですか。

感想

[防災学習シート]

- ・ 防災副読本の内容から、ラジオが重要であることや災害用伝言ダイヤルの効果を理解させることができた。



[自分の考えを書く]



[ペアで話し合う]



[全体で話し合う]

[児童の感想]

- ・ ラジオを身近に置く。
- ・ 災害用伝言ダイヤルを使う。
- ・ 人からの情報が大切なので、ついても助け合うようにしたい。
- ・ もしも、災害が起きたとき、どうしたら家族の無事を知ることができるか学んだ。